2020 年度 修士学位審査請求論文

アムドチベット語方言の現状調査

―中国四川省アバ・チベット族チャン族自治州九寨溝県を中心に―

LONG Yue

7213180006-2

立命館大学大学院言語教育情報研究科

2020 年度

要旨(Abstract)

九寨溝県のチベット語に関する具体的な言語学的研究は格桑・格桑（2002）と鈴木（2007、2008）の論文を除いてほとんど行われていない。この地域は「川西民族走廊」と呼ばれる地域の北端の一角にあたり、歴史上さまざまな民族が行き交った地域である。このような歴史的背景をもつ九寨溝県で、現在チベット族によって話される言語もまた数種に分かれている。

本稿では、九寨溝県におけるチベット族のチベット語の現状認識に関する意識調査と言語構造の継承状況に関する調査を行い、その分析を示した。調査を通じて、九寨溝県地域におけるチベット語使用の現状、さらにチベット語の現状と将来に対する認識を明らかにした。チベット語の運用能力が高い人ほど、家庭生活でチベット語を使う割合が高くなる傾向があることなどがわかった。文法調査の結果から、動詞形態法が最も伝統方言の構造を保持しやすく、名詞句内の修飾構造が最も中国語の影響で変化を被りやすいことがわかった。学歴が高いほどチベット語の構造に中国語の影響が見られることも明らかになった。また、チベット語の特徴継承率に影響を与える要素として、義務教育（小学校、中学校）の段階でチベット語の勉強をしていないこと、九寨溝県以外の漢族が集中している地域（成都市、綿陽市など）での学習経験、チベット語の読み書き能力の不足、漢族との接触が強い職業、九寨溝県以外の地域に仕事や就学などによる居住歴があることなどを挙げることができることがわかった。

キーワード（Keywords)

チベット語、言語使用、言語運用能力、言語継承、文法特徴、特徴保持率

目次

1. はじめに **1**

2. 先行研究 **2**

2. 1 九寨溝県地域におけるチベット語の継承状況 2

2. 2 アムドチベット語の文の基本構造 4

2.2.1 指示代名詞 4

2.2.2 時制 5

2.2.3 自動詞・他動詞 6

2.2.4 格形式と基本語順 6

3. 九寨溝県におけるチベット語の現状認識に関する意識調査 **8**

3.1 調査の概要 8

3.1.1 調査方法 8

3.1.2 調査項目 8

3.1.3 調査結果 9

3.2 チベット語使用の現状 10

3.2.1 言語習得及び言語能力 11

3.2.2 言語使用の状況について 14

3.3 チベット語の現状と将来に対する認識 17

3.3.1 チベット語の言語保持について 17

3.3.2 言語学習についての評価 18

3.3.3 チベット語の継承について 19

4. 文法調査 **20**

4.1 調査方法 20

4.2 調査項目 20

4.3 文法特徴ごとの影響の受けやすさと個人差 31

5. 結論 **37**

参照文献 38

謝辞 39

添付資料 40

略語

1	1 人称
2	2 人称
3	3 人称
ABS	絶対格
AUX	助動詞
COP	コピュラ動詞
DAT	与格
DEM	指示代名詞
ERG	能格
EXST	存在動詞
GEN	属格
LOC	場所格
PF	完了形
PSN	人名
SG	単数

1.はじめに

アムドチベット語はチベット語アムド方言とも呼ばれることがある。この言語はチベット語三大方言の一つである。アバ・チベット族チャン族自治州（以下、アバ州と略す）はチベット語アムド方言が話される地域の一つであり、四川省西北部に位置し、地理的にみても漢族の大都市、成都からそれほど離れておらず、アバ州のチベット族の一部は漢族の影響を受けてきたとみられる。特に観光開発が進んでいる九寨溝県において漢化が進んでおり、アムド方言話者は減少の一途をたどっている。

九寨溝県地域においては、チベット語の継承状況に関する具体的な言語学的研究は行われていない。また、この地域でいま話されているチベット語は伝統的なチベット語方言と比べてどのように違っているかということについても詳しい記述がない。さらに、具体的にどういった面で使えなくなっているのかについての研究も見られない。本稿はこうした問題を解明するための九寨溝県のチベット語方言に関する社会言語学的研究である。本稿ではこの地域のチベット族が自分たちの言語の現状についてどのように認識しているか明らかにするとともにこの地域のチベット語の構造の実態を記述し、話者の経歴と言語に関する認識と構造変化の相関関係を示すことを目指した。

次章以降の構成は以下のとおりである。第 2 章では九寨溝県地域のチベット語に関する先行研究を紹介するとともにこの地域のチベット語の構造を紹介する。この章で紹介するチベット語の構造は網羅的なものではなく、第 4 章で示す文法調査に関与的な項目に限られる。新型コロナウィルス感染拡大により現地での調査を断念せざるを得なかったため、調査項目は音韻構造を含まず、文法項目のみである。第 3 章はこの地域のチベット族が自分の言語運用能力やチベット語の保持およびチベット語の将来についてどう認識しているかに関する意識調査をもとに分析した章である。第 4 章では、潜在的に中国語の影響を被りやすいと考えられる文法特徴が実際にどのようになっているかを明らかにするための調査の結果とその分析を示した。この節では第 3 章の認識と伝統方言の特徴保持率の関係も分析した。第 5 章で全体の議論をまとめる。

2.先行研究

この章では、九寨溝県地域のチベット語に関する先行研究を紹介するとともに九寨溝県地域で話されているチベット語の文法構造について紹介する。なお、文法構造の紹介は本研究に関与的な範囲にとどめることにする。

2.1 九寨溝県地域におけるチベット語の継承状況

格桑・格桑（2002）は、九寨溝県地域のチベット語の分類について、四川省アバ・チベット族チャン族自治州北東部にある九寨溝県（旧南坪県）がチベット語分布地域の最東方の一つで、中国語、白馬語などの言語が話される地域と接しており、この地域が「川西民族走廊」と呼ばれる地域の北端の一角にあたり歴史上さまざまな民族が行き交った地域であることを指摘するとともに、このような歴史的背景をもつ九寨溝県で、現在チベット族によって話される言語もまた数種に分かれていると述べている。この地域のチベット語は、相互理解の困難な 3 種類に分かれ、それぞれ九寨溝県南東部（白馬区）、九寨溝県南西部（九寨溝風景区）、九寨溝県北部（黒河区）に分布している。これらの言語についての具体的な言語学的研究はほとんど行われていない。本稿では、九寨溝県南西部（九寨溝風景区）のチベット語を扱う。

九寨溝県のチベット語の通用性について鈴木（2008）は以下のように述べている。松潘県北部で用いられる方言と九寨溝風景区のチベット語は相互通用性がかなり高い。九寨溝風景区のチベット語と九寨溝県北部の方言の通用性はそれほどでもないが、発話内容の概要は理解できる。そして、九寨溝風景区のチベット語は九寨溝県東部に話者のいるペマ語とほとんど通用性がない。さらに、九寨溝風景区のチベット語は、チベット語方言として音声面を特徴づけるチベット語文語形式との対応の面から考えて、異質性が高く近隣の方言と似ている点が決して多くはない。それゆえに、その母語話者は母語が対外的な通用性の低い方言であることを認知している。現在、九寨溝風景区では観光開発に伴って、近隣地区から出稼ぎにやってくるチベット族が多く、それぞれの母語が共通でないため、通常のコミュニケーションには中国語が用いられる一方、同郷の人々の間ではそれぞれの母語が用いられる。

この状況から、九寨溝風景区のチベット語母語話者は、必然的に多言語が用いられる状況において、自らの母語と他の言語との相違点や類似点を把握していることが多いと鈴木（2008）は指摘している。九寨溝周辺のチベット語を扱う研究は少なく、理解が十分になされていないため、この地域のチベット語方言調査が必要である。

鈴木（2007）は、現在では九寨溝風景区の観光開発によって漢化が極めて激しく、チベット語

方言の伝承はほぼ行われておらず、ほぼ中年層以上の世代でなければ自由に操れない状況になっていると指摘した。しかし、九寨溝県では、チベット語運用能力の個人差がかなり大きい。若い世代にも自由に操る人もいれば、うまくできない人もいる。

この地域においては、チベット語の継承状況に関する具体的な言語学的研究は行われていない。また、この地域でいま話されているチベット語は伝統的なチベット語方言と比べてどのように違っているかということについても詳しい記述がない。さらに、具体的にどういった面で使えなくなっているのかについての研究も見られない。そこで、本稿では九寨溝県のチベット語方言の現状について明らかにしたい。

UNESCO（2003）によると、言語の活力を評価する際に最も一般的に使用される要因は、その言語が世代から世代へと伝達されるかどうかである。そして、危機に瀕した言語を六段階に分けることができるとされている。

危機言語	レベル	言語使用人口
安全	5	子どもたちから上の全ての世代でその言語が使用されている
脆弱	4	全ての分野でその言語を使っている子どもたちがおり、全ての子どもたちが一部の分野でその言語を使っている。
危険	3	その言語が主に親世代以上の年齢の人たちに使われている。
重大な危険	2	その言語が祖父母世代以上の世代に使われている。
極めて深刻	1	その言語が主にごく少数の人や曾祖親の世代によって使われている。
消滅	0	その言語が使用者がいない。

また、宮岡（1999）によると、言語の危機度を考えるときに注意しなくてはいけないのは、その話し手の単純な数ではない。子供がその言語を母語として習得しているか否かが言語の危機度を考えるうえでもっとも重要になる。そして、どの程度、異なる世代に話者が分布しているかが重要である。話者が 1 万人いる言語も、わずか数名のものも、その話者達がすべて高齢者層に限られていれば同程度に危機度は高いと考えなくてはならないと宮岡は指摘する。九寨溝県で言語の危機度を高めているのは、チベット語を話せる若年層が急激に減少していることが考えられる。

範（2016）は、言語多様性と文化多元性の保護、民族調和状態の維持、国家文化安全の促進などの面から、少数民族の危機言語問題を検討しなおさなければならないと指摘した。そして、民族言語と文化の多様性を保護する視点から見れば、民族の言語を科学的に保護する措置を

取るべきであり、少数民族の言語を発展させる上で、大事なのは少数民族の人たちが自分の言語の価値を認識することであると述べている。現在では、中国政府が少数民族の言語教育に対して大きな支援を行っている。しかし、少数民族がその重要性を認識するには、より強い保障が必要であり、より強力な政策が導入された後、少数民族の言語教育はより十分に重視されると考えられる。九寨溝県のチベット語が危機に瀕した原因は以下のように考えられる。公用語である中国語の普及強化に伴い、チベット語の使用率の低下が著しくなっており、言語接触による少数民族学生の母語使用と母語能力にも大きな影響をもたらしていると考えられる。

2.2 九寨溝県地域のチベット語の文法構造

九寨溝県のチベット語に関する文法記述が格桑・格桑（2002）と鈴木（2007、2008）の論文以外少ないため、比較的文法構造の記述が進んでいるアムド・チベット語の先行研究に触れながら九寨溝県地域のチベット語の文法構造を紹介する。以下で示した九寨溝地域のチベット語の例文は筆者自身が収集した例文である。

2.2.1 指示代名詞

九寨溝地域のチベット語の指示代名詞は、3 項対立体系である。こそあど（これ、それ、あれ、どれ）に加え、中称に 3 種類ある。近方の物体を指すもの（punaa）、近方上方を指すもの（iina）、近方下方を指すもの（munaa）を区別する。

（1） pa ne dewu ri .
豚.ABS DEM 元気 COP
「この豚は元気だ。」

（2） pa punnade dewu ri.
豚.ABS DEM 元気 COP
「その豚は元気だ。」

（3） pa tareide dewu ri.
豚.ABS DEM 元気 COP
「あの豚は元気だ。」

（4） pa guode dewu ri.
豚.ABS DEM 元気 COP
「どの豚が元気だ。」

(5) ale punaa dewu ri.

猫.ABS DEM（近方） 元気 COP

「そこにいる猫が元気だ。」

(6) ale iina dewu ri.

猫.ABS DEM（近方上方） 元気 COP

「そこの上にいる猫が元気だ。」

(7) ale munaa dewu ri.

猫.ABS DEM（近方下方） 元気 COP

「そこの下にいる猫が元気だ。」

2.2.2 時制

動詞の語幹には、完了形（V（完））と未完了形（V（未））、命令形の 3 つの形式がある。 完了形は、過去時制、即ち、発話の時点において既に完了した動作、過程を表す。未完了形は、非過去時制、即ち、発話の時点においてまだ完了していない動作、過程を表す（武内 1978）。チベット語では自動詞と他動詞で時制の表現が異なる。

自動詞の過去時制

自動詞の過去を表す構造は「S+O+V（完）」である。

(8) ŋɑ xuexiao nuo zenuo.

1SG.ABS 学校 LOC 着く.PF

「私は学校に着きました」

他動詞の過去時制

一方、他動詞の過去時制は「V（完）+cawuri」のように動詞の完了形に、完了を表す助動詞を加えて表す。

(9) ŋɑ niazi nie cawuri.

1SG.ABS ご飯.ABS 食べた AUX（完了）

「私はご飯を食べました」

自動詞の非過去時制

自動詞の非過去時制は V（完）の前に「dara」のような現在を表す副詞を加えて表す。

（10） ŋɑ　　dara　　xuexiao　　nuo　　zuodu.

1SG.ABS　今　　学校　　LOC　　付く.PF

「私は学校に向かっています」

他動詞の非過去時制

他動詞の非過去時制は「V（未）+geri」のように動詞の未完了形に、未完了を表す助動詞を加えて表す。

（11） ŋɑ　　niazi　　nya　　geri.

1SG.ABS　ご飯.ABS　食べる　AUX（未完了）

「私はご飯を食べます」

2.2.3 自動詞・他動詞

海老原（2019）は、アムド方言では自他同形の動詞が存在すると述べている（ɛi「開く、開ける」）。しかし、九寨方言で対応する自他動詞対は自他同形ではない（sete「開く」、seduni「開ける」。例は(12)(13)）。

（12） go　　kuru　　sete.

門.ABS　自身　　開く

「門が勝手に開いた」

（13） ŋɑ　　go　　seduni.

1SG.ABS　門　　開ける

「私は門を開けた」

2.2.4 格形式 と基本語順

ダムディン（2017）によると、アムド農民方言の語順と格配列は以下のとおりである。語順はSOV、すなわち「主語＋目的語＋動詞」である。格標識は、能格・絶対格型である。能格は他動詞文の主語（動作主）を表す。絶対格は、自動詞文の主語（動作主）と他動詞文の目的語（被動作主）を表す。与格は所有文の主語と複他動詞文の間接目的語を表す。

アムド方言では、動詞の目的語が与格で表わされることがある（例は（14））。対応する文で九寨方言では、目的語は絶対格で表わされる（例は（15））。目的語が斜格ではなく直接格である点で九寨方言は中国語と同様である（例は（16））。

（14） zhaxi=kə zhuoma=ma htɕerdʑi re.

PSN＝ERG PSN=DAT 殴る COP

「ザシはゾマを殴るだろう」

（15） zhaxi=e zhuoma duni nuo.

PSN＝ERG PSN.ABS 殴る COP

「ザシはゾマを殴るだろう」

（16） 扎西 要打 卓玛 吧.

PSN 殴る PSN COP

「ザシはゾマを殴るだろう」

アムド方言（例は（17））と九寨方言（例は（18））では、感情を表す動詞における感情の向かう対象は与格助詞を伴って現れる。中国語では、動詞における感情の向かう対象は前置詞句ではなく、動詞の直後に来る直接目的語で表わされる（例は（19））。

（17） ŋɑ zhaxi=ma htɕekkə.

1SG.ABS PSN=DAT 怖れる

「私はザシが怖い」

（18） ŋɑ zhaxi=ye sadu.

1SG.ABS PSN=DAT 怖れる

「私はザシが怖い」

（19） 我 害怕 扎西.

1SG 怖い PSN

「私はザシが怖い」

チベット語と日本語の語順は同じく SOV だが、チベット語と日本語は名詞修飾語の位置が異なる。日本語なら「大きい」＋「家」という語順で表現するところを、チベット語では「家」＋「大きい」のように修飾語が被修飾語の後ろに来る。

3.九寨溝県におけるチベット語の現状認識に関する意識調査

九寨溝県南西部（九寨溝風景区）の少数民族を対象に母語についての認識を問う意識調査を実施した。調査はインターネット上のアンケートフォームを利用した。中国の調査サイト「問巻星」にて調査票を作り、調査票のリンクをウェーボーやウェーチャット等のソーシャルネットワークに上げ調査への協力を呼びかけ調査協力者を集めた。

3. 1 調査の概要

3.1.1 調査方法

九寨溝県南西部（九寨溝風景区）の少数民族を対象に母語についての認識を問う意識調査を実施した。調査に際しては、中国のインターネット上で不特定を対象に意識調査ができるウェブサイト「問巻星」（https://www.wjx.cn/）において、本調査の調査票を（https://www.wjx.cn/m/62852914.aspx）に設置した。調査実施期間は 2020 年 3 月 12 日から 2020 年 4 月 12 日である。二重回答が発生していないことは確認済みである。

3.1.2 調査項目

調査票は二つの部分から構成される。それぞれの調査項目を中国語で質問した。自由記述の調査項目で調査協力者は中国語で回答した。以下、それぞれの部分の調査項目を示す。第一の部分は、調査協力者の属性に関する質問で、性別、民族、年齢、出身地、現住地、職業、学歴、就学経歴、居住歴、連絡先から構成される。

第二の部分は 29 の選択式の質問と 1 つの自由記述式の質問が含まれている。チベット族の母語保持と使用状況についての認識を明らかにすることがこの調査の目的である。まず、協力者のチベット語習得の基本状況について、「いつからチベット語を習得し始めたか」、「どのような方法でチベット語を習得したか」、「自分のチベット語運用能力についてどう思うか」、「あなたはチベット語が使えるか」、「チベット語を使用する場合及びチベット族の人との会話でのチベット語使用の現状」などの設問に回答してもらった。さらにチベット語に対する認識について、「現在九寨溝県のチベット語はどのような状態だと思うか」、「チベット族の言語はどれぐらいの期間維持できると思うか」、「九寨溝県でのチベット語の将来についてどう思うか」などの問題を問うた。

3.1.3 調査結果

今回の調査は、九寨溝県におけるチベット語の言語使用現状を確かめるために、2020 年 3 月から 4 月の間、九寨溝県南西部（九寨溝風景区）の少数民族を対象に母語についての認識を問う意識調査を実施した。調査協力者の内訳を表 3-1 に示す。

表 3-1 調査協力者の内訳

背景	基本情報	内訳（人）	割合
性別	男性	68	38.9%
	女性	107	61.1%
年齢	10 代	14	8.0%
	20 代	87	49.7%
	30 代	23	13.1%
	40 代	22	12.6%
	50 代以上	29	16.6%
職業	公務員	27	15.4%
	教師	16	9.1%
	学生	28	16.0%
	農民、牧民	4	2.3%
	医者	9	5.1%
	サラリーマン	9	5.1%
	サービス業	22	12.6%
	個人企業	25	14.3%
	その他	35	20.0%
教育歴	未就学	5	2.9%
	小学校	8	4.6%
	中学校	29	16.6%
	高校	23	13.1%
	専門学校	66	37.7%
	大学	42	24.0%

	大学院	2	1.1%
居住歴（九寨溝県以外）	ある	76	43.4%
	ない	99	56.6%

九寨溝県出身の男性 68 名、女性 107 名の計 175 名から回答を得られた。表 3-1 から分かるように、今回の調査協力者は各年齢層の人々が含まれている。175 人の調査対象者の中で、10 代～20 代の人が最も多く、全部で 101 人である。次に多いのが 30 代～50 代の人で 70 人である。一番少ない 60 代の人は 4 人である。調査協力者の中で、最小年齢は 14 歳で、最大年齢は 65 歳である。

表 3-1 で示したように、「職業」について、調査協力者の約 8 割が公務員、サービス業、個人企業、学生、その他と回答した。教師、農民、牧民、医者、サラリーマンと回答した調査協力者は 2 割しかいない。九寨溝県は観光都市で、サービス業、個人企業、その他など、地元の観光業に関わる仕事に従事する人が多いと分かる。九寨溝県では観光業が盛んであるため、教師や医者など安定した仕事をしている人は比較的に少ないと考えられる。この結果から、九寨溝県地域では、全体的に観光業に関わる仕事をする人が多いとわかる。

表 3-1 で分かるように、「教育歴」に関して、専門学校卒が一番多く 37.7%である。大学卒は 24.0%、中学校卒は 16.6%、高校卒は 13.1%、小学校卒は 4.6%である。大学院修了が一番少なく 1.1%である。さらに、未就学は 2.9%である。調査結果によると、高校以上の教育歴の割合は 75.9%である。後期中等教育以上の教育を受けている人が多いことがわかる。

九寨溝県は 1992 年に世界遺産に登録されて以来、観光開発に伴って漢族、回族などの民族が他の地域から転居してきた。さらに、九寨溝県のチベット族出身者が大学進学のために、成都市と綿陽市の学校に通うことが近年増え続けている。

「あなたは九寨溝県以外の地域に住んだことあるか？」に関しては、「ある」と回答した調査協力者は 43.4%（76 人）、「ない」と回答した調査協力者は 56.6%（99 人）であった。約半分の調査協力者が 3 年以上九寨溝県以外の地域で居住した経験がある。九寨溝県以外での居住経験には九寨溝県に転居前の九寨溝県以外の地域での生活と地元に生まれてから九寨溝県以外の地域での仕事や学校への通学などが含まれる。

3.2 チベット語使用の現状

チベット語の保持と使用状況についての認識を調査した。まず、調査協力者のチベット語習得

の基本状況について、チベット語ができるかどうか、自分のチベット語に対する評価、学習開始の時期、チベット語の学習方法などについて質問した。次に、チベット語の運用状況とチベット族の人との会話で用いる言語についての認識を調査した。なお、調査協力者本人の認識と客観的な言語使用にずれがあるケースを 4 章で指摘することにする。

3.2.1 言語習得及び言語能力

この節では、調査協力者のチベット語の習得状況と自分の中での二言語能力の回答結果を示す。九寨溝県地域でのチベット語の習得の現状と二言語能力についての自己認識を明らかにする。

表 3-2 チベット語の習得状況

チベット語が出来るかどうか	出来る	少しだけ出来る	ぜんぜん出来ない	
	130 人	24 人	21 人	
	74.3%	13.7%	12.0%	
チベット語運用能力	流暢に話せる、支障がない	会話はできるが、あまり使用しない	聞き取れるが、会話はできない	完全には理解できない
	104 人	34 人	14 人	2 人
	67.5%	22.1%	9.1%	1.3%
チベット語の学習を始めた時期	小さい頃から	学校に就学以降	就職後	その他
	134 人	9 人	6 人	5 人
	87.0%	5.8%	3.9%	3.3%
学習方法	家庭内で習得した	チベット族同士との交流で自然に覚えた	インターネットや書籍から習得した	その他
	128 人	97 人	13 人	1 人
	83.1%	63.1%	7.4%	0.7%

表 3-2 が示すように、「あなたはチベット語が出来ますか？」に関しては、「出来る」と回答した調

査協力者は 74.3%（130 人）、「少しだけ出来る」と回答した調査協力者は 13.7%（24 人）、「ぜんぜん出来ない」と回答した調査協力者は 12.0%（21 人）であった。九寨溝県のチベット族の 7 割近くがチベット語が「出来る」 と回答していた。「出来る」 と回答した 130 人のうち、自分のチベット語運用能力について「流暢に話せる、支障がない」と認識した人は 103 人、「会話はできるが、あまり使用しない」と認識した人は 27 人であった。また、「少しだけ出来る」 と回答した 24 人のうち、自分のチベット語運用能力について「流暢に話せる、支障がない」と認識した人は 1 人、「会話はできるが、あまり使用しない」と認識した人は 7 人、「聞き取れるが、会話はできない」と認識した調査協力者は 14 人、「完全には理解できない」と認識した調査協力者は 2 人であった。

チベット語を習得し始めた時期に関しては、「小さい頃から」と回答した調査協力者は 87.0%（134 人）、「学校に就学以降」と回答した調査協力者は 5.8%（9 人）、「就職後」と回答した調査協力者は 3.9%（6 人）、「その他」と回答した調査協力者は 3.3%（5 人）であった。学習方法に関しては、「家庭内で習得した」と回答した調査協力者は 83.1%（128 人）、「チベット族同士との交流で自然に覚えた」と回答した調査協力者は 63.1%（97 人）、「インターネットや書籍から習得した」と回答した調査協力者は 7.4%（13 人）、「その他」と回答した調査協力者は 0.7%（1 人）であった。

チベット語の学習を始める時期と学習方法に関しては、小さい頃から家庭内で習得するのが一般的であることがわかる。このことから、九寨溝地域でのチベット語の伝承は基本的に家庭内で行われていることがわかる。チベット語が使えると回答した人のうち約 3 割近くがチベット語を上手く話せないと考えている。このように回答した人の年齢はほぼ 20 歳以下であり、このことから、この地域のチベット語がすでに衰退の過程にあることがわかる。

第 6 回人口センサス（2010 年）によると、中国において、漢族人口が 12 億 2000 万人、少数民族の総人口は 1 億 600 万人であり、全国人口の 8.4%を占めている。尹（2019）は現在中国の少数民族は約 6000 万人が本民族の言語を使っており、約 3000 万人が本民族の文字を使っていると述べた。しかし、多くの少数民族は自分の民族言語の保護と伝承の重要性を重視していない。

岡本（2008）は、四川省のチベット語と中国語の二言語教育の問題について以下のように述べた。四川省のチベット語地域（アバ、カンゼ両自治州）で 1958 年から 1978 年の 20 年間、チベット語の授業が廃止され、中国語によるモノリンガル教育が強行された。これは、九寨溝県のチベット語話者が減少している一つ重要な要因であると考えられる。四川省教育委員会がチベット語を保護するためにチベット小中学校で二言語教育を実施した。しかし、地域によって発展

に大きな差異があり、教育資源の不均衡などの問題も含まれているため、少数民族の二言語教育にも大きな影響を与えている。すなわち、政府がチベット語を保護するために二言語教育を実施した。しかし、民族語、文字の使用を保障する政策がなく、チベット語の学習や使用を保障するなどの政策措置もない。少数民族の子どもは、自分の民族語の他に中国語や外国語を学習する必要があるため、学習の負担が大きい。これは、四川省のチベット語使用者が減少している原因ではないかと考えられる。

また、少数民族学生の教育実態について王(2017)は、次のように述べている。二言語教育を受けた少数民族学生は中学校卒業後、政策的な配慮があるにも関わらず、受験できる大学は多くない。進学できる分野も少ないため大都市の企業に就職するのは難しい。卒業後は少数民族地区に戻って就職することしかできないと述べた。現在では、少数民族出身者で立身出世のために初級教育の段階で中国語だけを習得して、中学(高校)を卒業した後に全国各地の有名大学に進学することを目標としている人が少なくない。

「あなたは九寨溝県以外のところで就学したことあるか」に関しては、「ある」と回答した調査協力者は 66.9%(117 人)、「ない」と回答した調査協力者は 33.1%(58 人)であった。調査協力者の約 7 割が九寨溝県以外のところで就学したことがあると分かった。九寨溝県のチベット族出身者が大学に進学のために、成都市と綿陽市の学校に通うことが近年増え続けている。成都市と綿陽市は漢族の大都市なので学校では中国語しか使わない。彼らはチベット語を手放すことによって、中国語モノリンガルになる恐れがある。このような状況の下で、少数民族の言語が継承されていくことは難しい。

「あなたは義務教育ではチベット語の授業を受けたことがあるか」に関しては、「ある」と回答した調査協力者は 42.2%(65 人)、「ない」と回答した調査協力者は 57.8%(89 人)であった。調査協力者の約 6 割が義務教育(小学校、中学校)の段階でチベット語の勉強をしていないことが分かった。彼らのチベット語はほとんど小さい頃から家庭内やチベット族同士の交流の中で自然に覚えたものである。学校で中国語しか勉強していないことが調査協力者のチベット語の使用に影響を与えたと考えられる。

表 3-3 自分の中での二言語能力の回答結果　人(%)

	チベット語の方が得意	中国語の方が得意	同程度
聞く	42 (27.3%)	40 (26.0%)	72 (46.8%)

話す	41（26.6%）	46（29.9%）	67（43.5%）
読む	19（12.3%）	108（70.1%）	27（17.5%）
書く	13（8.4%）	123（79.9%）	18（11.7%）

表 3-3 から、「聞く」、「話す」の技能において「同程度」を選択した割合が一番多く、40%を超えていることがわかる。つまり、調査協力者に自分のチベット語の「聞く」「話す」の能力と中国語の「聞く」「話す」の能力に大きいな差はないと捉えている人が半数近くいるということである。一方、「読む」、「書く」の技能において「中国語の方が得意」を選択した割合が 70%を超えていることがわかる。つまり、調査協力者に自分のチベット語の「読む」「書く」の能力より中国語の「読む」「書く」の能力の方が高いと捉えている人が 7 割以上いるということである。自分のチベット語の読み書き能力が不足していると認識した調査協力者が多いことが分かった。これは、チベット語より中国語の方に触れやすい環境だからこそ生じた結果ではないかと思われる。

3.2.2 言語使用の状況について

この節では、チベット語を使用する場面、チベット族の人との会話でのチベット語の使用現状の回答を示す。九寨溝県地域のチベット語の言語使用の現状を明らかにする。

表 3-4 チベット語を使用する場面 人（%）

	チベット語しか使用しない	チベット語を中心に使用する	チベット語をあまり使用しない	チベット語を使用しない
家庭内	58（37.7%）	71（46.1%）	17（11.0%）	8（5.2%）
仕事場	11（7.1%）	11（7.1%）	72（46.8%）	60（39.0%）
チベット族同士で挨拶する時	65（42.2%）	67（43.5%）	16（10.4%）	6（3.9%）
チベット族同士で普段の会話をする時	56（36.4%）	74（48.1%）	16（10.4%）	8（5.2%）
心の中で何かを考える時	44（28.6%）	51（33.1%）	39（25.3%）	20（13.0%）
民族イベントを行う時	57（37.0%）	72（46.8%）	16（10.4%）	9（5.8%）

表 3-5 チベット族の人との会話でのチベット語の使用現状　　人(%)

	チベット語しか使用しない	中国語しか使用しない	基本的にチベット語を使用する	あまりチベット語を使用しない	他の言語を使用する	回答なし
祖父世代	101 (65.6%)	3 (2.0%)	35 (22.7%)	10 (6.5%)	2 (1.3%)	3 (2.0%)
父世代	77 (50.0%)	5 (3.3%)	52 (33.8%)	16 (10.4%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)
兄弟姉妹(同世代)	50 (32.5%)	9 (5.8%)	56 (36.4%)	35 (22.7%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)
子女世代	29 (18.8%)	7 (4.6%)	41 (26.6%)	46 (29.9%)	3 (2.0%)	28 (18.2%)
孫世代	23 (14.9%)	7 (4.6%)	31 (20.1%)	41 (26.6%)	4 (2.6%)	48 (31.2%)

表 3-4 から、この地域のチベット族の 4 割以上がチベット語を中心に使用するのは家庭内、チベット族同士で挨拶する時、チベット族同士で普段の会話をする時、民族イベントを行う時であることがわかる。一方、仕事場では、チベット語を中心に使用する人は多くなく 7.1%しかいない。また、表 3-5 から、祖父世代や父世代との会話でチベット語を使う人が多いことがわかる。調査協力者の 65.6%が祖父世代と話すときにチベット語しか使用しない。50.0%が父世代と話すときにチベット語しか使用しない。しかし、同世代、子女世代、孫世代と話すときになると、チベット語を使う人が減少する傾向が見られている。それぞれ、32.5%、18.8%、14.9%である。

この地域のチベット族は家庭内で親戚や家族と集まる時とチベット族同士でのコミュニケーションをとる時にチベット語をよく使う。また、祖父世代や父世代との会話でチベット語を使う人が多いことがわかる。一方、仕事場では、チベット語を使用する人は多くない。母語を保持するために、一部の家庭ではできるだけチベット語を使うが、社会でコミュニケーションを取れるように、自ら普段の社会生活ではチベット語の使用を避ける傾向が見られる。チベット話は現地の主な社交用

言語であり、様々な場面や異なった交際相手の間で広く使われている。しかし、調査結果からこの地域のチベット語の社会的コミュニケーション機能が衰えてきているとわかる。仕事場などの正式な場面ほど、中国語を使用する割合が高い。

チベット語の使用現状とチベット語運用能力について、家庭内でのチベット語使用が非常に重要と考えられる。表 3-4 から、この地域のチベット族は家庭内で「チベット語しか使用しない」と回答した人は 58 人であった。この 58 人のうち、表 3-2 の中で自分のチベット語運用能力について「流暢に話せる、支障がない」と回答した人は 52 人、「会話はできるが、あまり使用しない」と回答した人は 4 人、「聞き取れるが、会話はできない」と回答した人は 2 人であった。「完全には理解できない」と回答した人はいなかった。

また、家庭内では「チベット語を中心に使用する」と回答した人は 71 人であった。71 人のうち、表 3-2 の中で自分のチベット語運用能力について「流暢に話せる、支障がない」と回答した人は 49 人、「会話はできるが、あまり使用しない」と回答した人は 20 人、「聞き取れるが、会話はできない」と回答した人は 1 人であった、「完全には理解できない」と回答した人は 1 人であった。

さらに、家庭内では「チベット語をあまり使用しない」と回答した人は 17 人であった。17 人のうち、表 3-2 の中で自分のチベット語運用能力について「流暢に話せる、支障がない」と回答した人は 3 人、「会話はできるが、あまり使用しない」と回答した人は 8 人、「聞き取れるが、会話はできない」と回答した人は 6 人であった、「完全には理解できない」と回答した人はいなかった。

家庭内では「チベット語を使用しない」と回答した人は 8 人であった。8 人のうち、表 3-2 の中で自分のチベット語運用能力について「流暢に話せる、支障がない」と回答した人は 0 人、「会話はできるが、あまり使用しない」と回答した人は 2 人、「聞き取れるが、会話はできない」と回答した人は 5 人であった、「完全には理解できない」と回答した人は 1 人であった。以上の結果から、チベット語の運用能力が高い人ほど、家庭生活でチベット語を使う割合が高くなる傾向があることがわかった。

表 3-2 で自分のチベット語運用能力についての認識から、「流暢に話せる、支障がない」と回答した人 104 人のうち、「九寨溝県以外での居住歴」について「ある」と回答した人は 41 人(31.4%)であった。「会話はできるが、あまり使用しない」と回答した人 34 人のうち、「九寨溝県以外での居住歴」について「ある」と回答した人は 15 人(44.1%)であった。「聞き取れるが、会話はできない」と回答した人 14 人のうち、「九寨溝県以外での居住歴」について「ある」と回答した人は 8 人(57.1%)であった。「完全には理解できない」と回答した人 2 人のうち、「九寨溝県以外での居住歴」について「ある」と回答した人は 1 人(50.0%)であった。この結果から、自分のチ

ベット語運用能力について低く認識している人ほど、「九寨溝県以外での居住歴」について「ある」と回答した人の割合が高くなる傾向が見られる。

3.3 チベット語の現状と将来に対する認識

3.3.1 チベット語の言語保持について

この節では、九寨溝県のチベット語の言語保持に関する認識の調査の結果をまとめる。

表 3-6 言語保持に関する調査 人（%）

言語保持の状態	よい	普通	弱い	絶滅の危機にある
	31（17.7%）	38（21.7%）	82（46.9%）	24（13.7%）
言語保持の期間	長い間維持	二世代ぐらい維持	一世代ぐらい維持	わからない
	67（38.3%）	53（30.3%）	17（9.7%）	38（21.7%）
言語保持の将来	使用者が多くなる	使用者が現在と同じ	使用者が少なくなる	
	44（25.1%）	10（5.7%）	121（69.1%）	

この調査では主に三つの側面を考察した。現在九寨溝県のチベット語の言語保持の状態についての認識、チベット族の言語の保持可能な期間についての認識、九寨溝県でのチベット語の将来に対する推測である。

表 3-6 で示したように、現在の九寨溝県のチベット語の言語保持の状態についての調査では、31 人（17.7%）が言語保持の状態がよいと考えている。言語保持の状態が普通と回答した人は 38 人（21.7%）である。言語保持の状態が弱いと考えている人が一番多く 82 人（46.9%）である。言語保持の状態が絶滅の危機にあると考えている人が 24 人（13.7%）である。言語保持の状態が絶滅の危機にあると考えている人 24 人のうち、18 人が、3.2.1 に示した調査で、自分のチベット語運用能力について、「流暢に話せる、支障がない」と回答した。約 8 割の人が自分のチベット語について高い評価をしているにもかかわらず、チベット語の未来について不安な気持ちを持っていることがわかった。

「チベット族の言語はどれぐらいの期間維持できると思いますか？」については、67 人（38.3%）

が長い間維持できると回答した。「九寨溝県でのチベット語の将来についてどう思いますか？」に関しては、使用者が少なくなるという回答が一番多く 121 人（69.1%）である。調査結果から、九寨溝県のチベット語の言語保持の状態について、弱いもしくは絶滅の危機にあると考えた人が多いことがわかる。チベット語の未来について楽観できないということを示している。

現在の九寨溝県のチベット語の言語保持の状態について「よい」と回答した 31 人のうち、表 3-2 の「あなたはチベット語が出来ますか？」に関して、「出来る」と回答した調査協力者は 23 人（74.1%）、「少しだけ出来る」と回答した調査協力者は 2 人（6.5%）、「ぜんぜん出来ない」と回答した調査協力者は 6 人（19.4%）であった。チベット語の言語保持の状態について「普通」と回答した 38 人のうち、「あなたはチベット語が出来ますか？」に関しては、「出来る」と回答した調査協力者は 30 人（78.9%）、「少しだけ出来る」と回答した調査協力者は 3 人（7.9%）、「ぜんぜん出来ない」と回答した調査協力者は 5 人（13.2%）であった。

また、チベット語の言語保持の状態について「弱い」と回答した 82 人のうち、「あなたはチベット語が出来ますか？」に関しては、「出来る」と回答した調査協力者は 56 人（68.3%）、「少しだけ出来る」と回答した調査協力者は 16 人（19.5%）、「ぜんぜん出来ない」と回答した調査協力者は 10 人（12.2%）であった。チベット語の言語保持の状態について「絶滅の危機にある」と回答した 24 人のうち、「あなたはチベット語が出来ますか？」に関しては、「出来る」と回答した調査協力者は 21 人（87.5%）、「少しだけ出来る」と回答した調査協力者は 3 人（12.5%）、「ぜんぜん出来ない」と回答した調査協力者は 0 人（0.0%）であった。以上の結果から、この地域のチベット語の保持に関して「よい」と認識している人ほど自分のチベット語運用能力について「ぜんぜん出来ない」と認識する傾向が強いことが見られる。

「あなたはチベット語が出来ますか？」について「出来る」と回答した調査協力者は「普通」、「弱い」、「絶滅の危機にある」の 3 つの言語保持の状態に比較的高い割合を占めていることがわかる。つまり、チベット語の未来について不安な気持ちを持っていることがわかった。これは、調査協力者が自分のチベット語運用能力を高く認識している場合でも、チベット語の未来を心配していることを意味する。

3.3.2 言語学習についての評価

教育は民族の発展に関わる重要な問題であり、教育に対する考え方を知るために、意識調査には「自分の子女がチベット語を勉強することについてどう考えていますか？」という設問を設けた。「賛成」と答えた人が一番多く 154 人（88%）であった。「賛成しない」「彼／彼女が自分で決

めること」と答えた人がそれぞれ 2 人（1.1%）、19 人（10.9%）である。この結果から、約 9 割の人が自分の子女にチベット語を勉強して欲しいと考えていることがわかる。自由記述の設問にも、「チベット語を学びたい、チベット語を残したい、チベット語を伝えたい」という声がある。

チベット語が話せることに対する感想では、「誇りに思う」が 65%であり、「当たり前に思う」が 29.1%であった。また、「なんとも思わない」が 4.6%である。以上からチベット族の言語が使用できることを誇りに思っている人が多いことがわかった。

「あなたにとってチベット語と中国語のいずれが重要か?」について、中国語が重要だと思っている人は全体の 62.9%を占めており、チベット語よりも中国語が重要だと思っている人が多いことがわかった。「将来必要だから」、「中国語を使う人が一番多いから」、「生活上便利だから」などの理由を挙げている。さらに、中国語が将来の進学や就職を大きく左右するからだと思われる。一方、チベット語が重要だと思っている人は全体の 37.1%を占めている。「チベット族だから」、「自分の民族語や民族文化を守るためにチベット語学習が重要だから」などの理由を挙げている。これは、少数民族言語の話者として自分の民族語が絶滅の危機に直面していることを意識していることの表現である。

3.3.3 チベット語の継承について

自由記述式の質問「どんな方法を使って、チベット語の継承ができると思うか」に対して、「学校でチベット語の授業を開設し、若者たちのチベット語学習を強化し、学習意欲を高め、チベット語に関する活動を展開する」、「政府がチベット語を守るために良い政策を制定し、地元の学生にチベット語を勉強させる」、「家庭内でチベット語を使って、コミュニケーションを取ってチベット語を勉強する」などの方法を回答している。以上の回答から、学校でのチベット語学習が最も重視されていることがわかる。さらに、政府の強い保障が必要であり、より強力な政策が少数民族の言語教育にとって重要と考えられていることがわかる。

4. 文法調査

3 章では九寨溝県のチベット語の運用能力と継承への展望に関する認識を示した。3 章で示したデータは母語話者の主観を反映したものである。この章では、客観的な言語構造の継承状況を示す文法調査の結果と分析を示す。

4.1 調査方法

九寨溝県南西部（九寨溝風景区）のチベット族を対象に文法調査を行った。調査協力者に中国語で書かれた調査票を示し、口頭でチベット語に訳してもらい、それを録音し、チベット語がわかる人に転写してもらった。文法調査に協力してくれた人は、3 章に示した意識調査の調査協力者の一部である。

調査協力者は、九寨溝県出身の 10 代から 60 代の男女 2 名ずつ、合計 24 名である。調査協力者の内訳は、以下の通りである。表の中の年は調査協力者が生まれた年である。

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
男	2001 年 2001 年	1993 年 1999 年	1990 年 1990 年	1972 年 1974 年	1963 年 1967 年	1958 年 1960 年
女	2006 年 2002 年	1992 年 1995 年	1990 年 1990 年	1971 年 1980 年	1965 年 1970 年	1955 年 1958 年

4.2 調査項目

この節では、文法調査の調査項目への回答を示す。文法調査の調査項目を選ぶにあたっては海老原（2019）に基づいて中国語からの影響を受けやすい項目を選んだ。九寨溝県地域のチベット語方言の伝統的な構造を反映したものを例文の a に示し、それ以外の構造を b に示し、中国語の例文は c に示す。

4.2.1 斜格目的語

九寨溝県の伝統方言では、感情を表す動詞における感情の向かう対象は与格助詞を伴って現れる（例は（1a）、（2a））。アムド方言も同様であり、（1a）および（2a）の構造を回答した調査協力者は 18 人であった。中国語では、動詞における感情の向かう対象は前置詞句ではなく、動詞の直後に来る直接目的語で表わされる（1c）（2c）。調査協力者の 6 人（10 代 1 人、20 代 2 人、30 代 2 人、50 代 1 人）が、感情を表す動詞における感情の向かう対象を絶対格で表わした（例

は（1b）、（2b））。

3 章に示した調査によると、調査協力者の 6 名は全員義務教育（小学校、中学校）の段階でチベット語の勉強をしていないと分かった。彼らはチベット語をほとんど家庭内で習得した。学校で中国語しか勉強していないことが調査協力者のチベット語の使用に影響を与えたと考えられる。

（1）a. ŋɑ　　zhaxi= ye　　sadu.
　　1SG.ABS　　PSN=DAT　　怖れる
　　「私はザシが怖い」

　b. ŋɑ　　zhaxi　　sadu.
　　1SG.ABS　　PSN.ABS　　怖れる
　　「私はザシが怖い」

　c. 我　　害怕　　扎西.
　　1SG　　怖い　　PSN
　　「私はザシが怖い」

（2）a. ŋɑ　　zhaxi= ye　　gadu.
　　1SG.ABS　　PSN=DAT　　好き
　　「私はザシが好き」

　b. ŋɑ　　zhaxi　　gadu.
　　1SG.ABS　　PSN.ABS　　好き
　　「私はザシが好き」

　c. 我　　喜欢　　扎西.
　　1SG　　好き　　PSN
　　「私はザシが好き」

4.2.2 授与動詞文の受け手

アムド方言では、「与える」などの受け手（間接目的語）が与格で現れる（例は（3a）、（4a））。九寨溝県の伝統方言も同様であり、（3a）および（4a）の構造を回答した調査協力者は 21 人であった。一方、中国語では受け手が直接目的語になる（3c）、（4c）。調査協力者の 3 人（10 代 1 人、20 代 2 人）が「与える」の受け手を絶対格で表した（例は（3b）、（4b））。受け手が直接格で表される点で中国語と共通点のある構造である。

「受け手」を絶対格で表した 3 名の調査協力者は九寨溝県以外の漢族が集中している地域

（成都市、綿陽市など）で学習していた経験があり、漢族が集中している地域の学校のクラスにはほとんどチベット族がいなかった。「受け手」を絶対格で表した 3 名の調査協力者は他の調査協力者より中国語との接触が強いことが分かった。

（3）a. ŋɑ=e reeide zhaxi=ye yajudoni.
1SG=ERG 本.ABS PSN=DAT 与える.
「私は本をザシに与えた」

b. ŋɑ=e reeide zhaxi yajudoni.
1SG=ERG 本.ABS PSN.ABS 与える.
「私は本をザシに与えた」

c. 我 把 书 给 扎西 了.
1SG ~を 本 あげる PSN 完了
「私は本をザシに与えた」

（4）a. ŋɑ=e qude kuru=ye yajudoni.
1SG=ERG 水.ABS PSN=DAT 与える.
「私は水を彼に与えた」

b. ŋɑ=e qude kuru yajudoni.
1SG=ERG 水.ABS PSN.ABS 与える.
「私は水を彼に与えた」

c. 我 把 水 给 他 了.
1SG ~を 水 あげる 3SG 完了
「私は水を彼に与えた」

4.2.3 名詞による名詞の修飾

アムド方言では、名詞が名詞の修飾部となる場合は、必ず主要部の前に置かれる。修飾名詞は属格（GEN）をとる（例は（5a））。九寨溝県の伝統方言も同様であり、（5a）の構造を回答した調査協力者は 15 人であった。中国語では、助詞「的」を使って、名詞を修飾する（5c）。調査協力者の 9 人（10 代 2 人、20 代 2 人、30 代 1 人、40 代 2 人、50 代 1 人、60 代 1 人）が助詞「的」を使って、「羊」を修飾した（例は（5b））。

調査協力者の約 4 割近くが助詞「的」を使って、「羊」を修飾したことから、幅広い世代で中国語の影響を受けていることが分かる。「的」を使用した調査協力者の 9 人は 3 章に示した調査で

はチベット語よりも中国語の読み書き能力が高いと答えている。チベット語の読み書き能力の不足はチベット語が中国語からの影響を強く受ける重要な原因と考えられる。

(5) a. ci senie.
2SG.GEN 羊
「あなたの羊」

b. ce de senie.
2SG.ABS の 羊
「あなたの羊」

c. 你 的 羊.
2SG の 羊
「あなたの羊」

4.2.4 形容詞による修飾

アムド方言では「家」＋「大きい」のように形容詞が被修飾語の後ろに来る（例は（6a））。九寨溝県の伝統方言も同様であり、（6a）の構造を回答した調査協力者は 22 人であった。中国語では「大きい」＋「家」という語順で表現する（6c）。調査協力者の 2 人（10 代 2 人）がチベット語に訳す際「大きい」＋「家」の語順を用いた（例は（6b））。このことから、中国語が若い世代のチベット語の語順に影響を与えていることがわかる。

中国語と同じ語順を示した 2 人の調査協力者は自分のチベット語より中国語の能力が高いと思っている。彼らは家庭内では祖父世代との交流は主にチベット語で行っている。一方、父世代との交流は主に中国語で行っている。さらに、同世代になると、普段の会話は中国語のみを使用している。家庭内でチベット語の使用が減少していることも若者のチベット語に大きな影響を与えたようである。

(6) a. puna wo luodo jinuo.
あそこ 家.ABS 大きい EXST
「あそこに大きな家がある」

b. puna luodo wo jinuo.
あそこ 大きい 家.ABS EXST
「あそこに大きな家がある」

c.　那里　有个　很大　的　房子.

あそこ　ある　大きい　の　家

「あそこに大きな家がある」

4.2.5 所有文

アムド方言では、所有文における所有者は与格で現れる（例は（7a））。九寨溝県の伝統方言も同様であり、（7a）の構造を回答した調査協力者は 17 人であった。調査協力者の 7 人（10 代 2 人、20 代 2 人、30 代 1 人、50 代 1 人、60 代 1 人）が所有文の所有者を絶対格で表した（例は（7b））。

所有者を絶対格で表した調査協力者のうち 10 代から 30 代の 3 人は自分のチベット語運用能力について、会話は可能だが、あまり流暢ではないと考えている。さらに、彼らは仕事場や学校ではチベット語を使わないと回答している。所有者を絶対格で表した調査協力者のうち 50 代と 60 代の 2 人はともに若い頃が大学に通った経歴があり、現在の職業は医者とホテルの管理者である。高学歴や漢族との接触が強い職業は、彼らのチベット語にある程度の影響を与えたと考えられる。

（7）a.　zhaxi＝ye　nyanv　nuo.

PSN＝DAT　子供.ABS　EXST

「ザシは子供がいる」

b.　zhaxi　nyanv　nuo.

PSN.ABS　子供.ABS　EXST

「ザシは子供がいる」

c.　扎西　有　孩子.

PSN　いる　子供

「ザシは子供がいる」

4.2.6 被使役者

日本語では、他動詞文をもとにした使役文の場合、被使役者が与格で現れる。一方、自動詞文をもとにした使役文の場合、被使役者は対格または与格で現れる。アムド方言では、もとの文の他動性にかかわらず使役文では一貫して被使役者が与格で現れる。使役述語はjuri（させた）

という接尾詞を動詞に付加するかたちで形成する（例は（8a）、（9a）、（10a）、（11a））。完了形の juri はその事態が完了したことを表す。使役者の主語を能格で、被使役者は与格で表す。九寨溝県の伝統方言も同様であり、（8a）、（9a）、（10a）、（11a）の構造を回答した調査協力者は 21 人であった。

調査協力者の 3 人（10 代 1 人、20 代 2 人）が被使役者を絶対格で表した（例は（8b）、（9b）、（10b）、（11b））。これらの調査協力者は漢族が集中している地域（成都市、綿陽市）の寄宿学校への通学経験がある。チベット語の言語環境がない状況で、他の人と比べるとより強く中国語の影響を受けたものと考えられる。

「走る」から派生した使役文では、述部でチベット語の形態素を用いず、（9d）のように中国語で「走った」を表す「跑步了（pǎobùle）」を示した協力者が 3 人（10 代 1 人、20 代 2 人）いた。さらに、方向を表す「nuo」を使わず、中国語と同じく絶対格にする調査協力者が 3 人（10 代 2 人、20 代 1 人）いた（例は（10d））。

（8）a. aba　kuru＝ye　rage　nu-juri.
父.ERG　3SG＝DAT　酒.ABS　飲む-使役
「父は彼にお酒を飲ませた」

b. aba　kuru　rage　nu-juri.
父.ERG　3SG.ABS　酒.ABS　飲む-使役
「父は彼にお酒を飲ませた」

c. 爸爸　让　他　喝酒　了.
父　させる　3SG　お酒を飲む　完了
「父は彼にお酒を飲まさせた」

（9）a. lobei　kuru＝ye　zu-juri.
先生.EGR　3SG＝DAT　走る-使役
「先生は彼を走らせた」

b. lobei　kuru　zu-juri.
先生.EGR　3SG.ABS　走る-使役
「先生は彼を走らせた」

c. 老师　让　他　跑步　了.
先生　させる　3SG　走る　完了
「先生は彼を走らせた」

d. lobei kuru＝ye paobu le.

先生.EGR 3SG＝DAT 走る 完了

「先生は彼を走らせた」

(10) a. ama ŋɑ＝ye reeidasa nuo zuo-juri.

母.ERG 私＝DAT 学校 LOC 行く-使役

「母が私を学校に行かせた」

b. ama ŋɑ reeidasa nuo zuo-juri.

母＝ERG 1SG.ABS 学校 LOC 行く-使役

「母が私を学校に行かせた」

c. 妈妈 让 我 去 学校 了.

母 させる 1SG 行く 学校 完了

「母が私を学校に行かせた」

d. ama ŋɑ＝ye reeidasa zuo-juri.

母.ERG 1SG＝DAT 学校.ABS 行く-使役

「母が私を学校に行かせた」

(11) a. lobei ŋɑ＝ye reei ne nei-juri.

先生.ERG 1SG＝DAT 本.ABS この 読む-使役

「先生は私にこの本を読ませた」

b. lobei ŋɑ reei ne nei-juri.

先生.ERG 1SG.ABS 本.ABS この 読む-使役

「先生は私にこの本を読ませた」

c. 老师 让 我 读 这本书.

先生 させる 1SG 読む この本

「先生は私にこの本を読ませた」

4.2.7 指示代名詞と疑問詞による修飾

指示代名詞と疑問詞はともに修飾する名詞の後ろに現れる。(12a)は指示代名詞が名詞を修飾している例である。「どの服があなたのですか」の文でチベット語では「服どのあなたのですか」のように現れる。調査協力者の 9 人(10 代 2 人、20 代 2 人、30 代 2 人、40 代 1 人、50 代 1 人、60 代 1 人)が中国語と同じ語順の文を回答した(例は(12b))。

意識調査によると、調査協力者の 9 人は、九寨溝県以外の地域に仕事や就学などの理由で 3 年以上の居住歴がある。漢民族の集中地域での生活経験は彼らのチベット語に影響を与えたと考えられる。

（12） a. guore guode ci deri？
服.ABS どの 2SG.GEN COP
「どの服があなたのですか」
guore ne ri.
服.ABS DEM COP
「この服です」

b. guode guore ci deri？
どの 服.ABS 2SG.GEN COP
「どの服があなたのですか」
ne guore ri.
DEM 服 COP
「この服です」

c. 哪件 衣服 是 你 的？
どの 服 COP 2SG の
「どの服があなたのですか」
这件 衣服.
この 服
「この服です」

4.2.8 自動詞の過去時制

動詞の語幹には、完了形（V（完））と未完了形（V（未））、命令形の 3 つの形式がある。 完了形は、過去時制、即ち、発話の時点において既に完了した動作、過程を表す。未完了形は、非過去時制、即ち、発話の時点においてまだ完了していない動作、過程を表す（武内 1978）。チベット語では自動詞と他動詞で時制の表現が異なる。

自動詞の過去を表す構造は「S+O+V（完）」である（例は（13a））である。全ての調査協力者が自動詞の過去を表す伝統的構造を用いた。しかし、調査協力者の 6 人（10 代 1 人、20 代 1 人、30 代 2 人、40 代 1 人、60 代 1 人）が「学校に」をそのまま中国語で表した（例は（13b））。

このことから、彼らが文法構造はチベット語のものを継承しているけれども、語彙的には中国語の影響を受けていることがわかる。部分的に中国語を使った調査協力者のうち 10 代から 30 代の 4 人は最初に習得した言語がチベット語ではなく、中国語であった。また、部分的に中国語を使った調査協力者のうち、40 代と 60 代の 2 人は学校ではチベット語を勉強したことがなかった。

(13) a. kuru dicejinuo reeidaase zenuo.
3SG.ABS 1 時に 学校に 着いた
「彼は1時に学校に着いた」

b. kuru dicejinuo xuexiao zenuo.
3SG.ABS 1 時に 学校に 着いた
「彼は 1 時に学校に着いた」

c. 他 一点 到了 学校.
3SG.ABS 1 時 着いた 学校
「彼は 1 時に学校に着いた」

4.2.9 他動詞の過去時制

他動詞の過去時制は「V(完)+cawuri」のように動詞の完了形に、完了を表す助動詞を加えて表す(例は(14a))。調査協力者の4人(10 代 1 人、20 代 1 人、30 代 2 人)が「完了」を表す助動詞「cawuri」を用いなかった(例は(14b))。

これらの 4 人は小学校から漢族が集中している地域(成都市、綿陽市)で学校に通っていた。彼らは小学校の時から学校でチベット語を勉強したことがなく、他の場所でもチベット語の言語環境がなかった。幼い頃の学習経験が彼らのチベット語に影響を与えたと考えられる。

(14) a. kuru dicejinuo niazi nie cawuri.
3SG.ABS 1 時に ご飯 食べた AUX(完了)
「彼は1時にご飯を食べた」

b. kuru dicejinuo niazi nie .
3SG.ABS 1時に ご飯を 食べた
「彼は1時にご飯を食べた」

c. 他 一点 吃了 饭.
3SG.ABS 1 時 食べた ご飯
「彼は1時にご飯を食べた」

4.2.10 自動詞の非過去時制

自動詞の非過去時制は V（完）の前に「dara」のような現在を表す副詞を加えて表す（例は（15a））。中国語では、現在を表す副詞を加えない（例は（15c））。調査協力者の 5 人（20 代 2 人、30 代 3 人）が現在を表す副詞「dara」を加えていないことが分かった（例は（15b））。中国語では「今」のような副詞なしで発話時点の現象を表すことができる（（15c）を参照）。(15b)の構造は、中国語と同様「今」を表す副詞なしで発話時点の現象を表している。これは、中国語からの影響と考えられる。

（15）a. dara nuo mudu.
今 雨.ABS 降っている
「雨が降っている」

b. nuo mudu.
雨.ABS 降っている
「雨が降っている」

c. 下着 雨.
降っている 雨
「雨が降っている」

4.2.11 他動詞の非過去時制

他動詞の非過去時制は「V（未）+geri」のように動詞の未完了形に、未完了を表す助動詞を加えて表す（例は（16a））。中国語の場合では、動詞の未完了形に、未完了を表す助動詞を加えて表すのではなく、副詞の「在」を用いて表す（例は（16c））。調査協力者の 5 人（20 代 3 人、30 代 2 人）が未完了を表す助動詞「geri」を用いていなかった（例は（16b））。中国語では未完了の助動詞なしで発話時点の現象を表すことができる（（16c）を参照）。(16b)の構造は、中国語と同様未完了の助動詞なしで発話時点の現象を表している。これは、中国語からの影響と考えられる。

（16）a. ŋɑ zagei dadu geri.
1SG.ABS 中国語.ABS 勉強する AUX（未完了）
「私は中国語を勉強している」

b. ŋɑ zagei dadu.

1SG.ABS 中国語.ABS 勉強する

「私は中国語を勉強している」

c. 我 在 学习 汉语.

1SG している 勉強 中国語

「私は中国語を勉強している」

4.2.12 自他動詞対

海老原（2019）は、アムド方言では中国語と同じように自他同形の動詞が存在すると述べている（ɕi「開く、開ける」）。しかし、2 章で述べたように九寨方言で対応する自他動詞対は自他同形ではない（sete「開く」、seduni「開ける」。例は（17）（18））。

しかし、調査協力者の 4 人（10 代 1 人、20 代 3 人）が「開く、開ける」の対を自他同形の動詞で表した（例は（19）（20））。中国語の場合は、「開く、開ける」の対を自他同形の動詞「开（kāi）」で表す（例は（21）（22））。今回の協力者の中で、10 代と 20 代の若者が自他同形を用いたことは、中国語からの影響があると考えられる。

（17） go kuru sete.

門.ABS 自身 開く

「門が勝手に開いた」

（18） ŋɑ go seduni.

1SG.ABS 門.ABS 開ける

「私は門を開けた」

（19） go kuru sedini

門.ABS 自身 開く

「門が勝手に開いた」

（20） ŋɑ go seduni.

1SG.ABS 門.ABS 開ける

「私は門を開けた」

（21） 门 开了.

門.ABS 開いた

「門が勝手に開いた」

(22)　我　　开了　　门.

1SG　　開けた　門

「私は門を開けた」

4.3 文法特徴ごとの影響の受けやすさと個人差

4.3.1 文法項目ごとの特徴保持率に関する全体的傾向

この節では、文法項目ごとの特徴保持率に関する全体的傾向を示す。

表 1　　文法特徴ごとの影響の受けやすさ

文法特徴ごとの影響	チベット語と同じ構造	それ以外の構造
斜格目的語	18 人	6 人
	75.0%	25.0%
授与動詞文の受け手	21 人	3 人
	87.5%	12.5%
名詞による修飾	15 人	9 人
	62.5%	37.5%
形容詞による修飾	22 人	2 人
	91.7%	8.3%
所有文	17 人	7 人
	70.9%	29.1%
被使役者	21 人	3 人
	87.5%	12.5%
指示代名詞、疑問詞による修飾	15 人	9 人
	62.5%	37.5%
自動詞の過去時制	24 人	0 人
	100.0%	0.0%
他動詞の過去時制	20 人	4 人
	83.3%	16.7%
自動詞の非過去時制	19 人	5 人
	79.2%	20.1%

他動詞の非過去時制	19 人	5 人
	79.2%	20.1%
自他動詞対	20 人	4 人
	83.3%	16.7%

表 1 から「名詞による修飾」、「所有文」、「指示代名詞、疑問詞による修飾」の約 3 割以上が中国語からの影響を受けていることがわかる。調査項目の中で、「名詞による修飾」、「指示代名詞、疑問詞による修飾」、「所有文」が最も影響を受けやすいことが分かった。

4.2.3 で示した「名詞による修飾」は所有物 B に属格名詞 A が先行して「A の（所有する）B」という名詞句を構成する。しかし、調査協力者の約 4 割近くが属格名詞 A に中国語の助詞「的」を後続させて、所有物 B を修飾した。九寨方言では、所有文における所有者は与格で現れるが、文法調査によると、調査協力者の 7 人が所有文における所有者を絶対格で表した。チベット語では指示代名詞と疑問詞はともに名詞を後ろから修飾する。しかし、調査協力者のうち 9 人が中国語と同じ語順で指示代名詞と疑問詞を名詞の前に置いた。格は名詞の形態的カテゴリーである。修飾関係も含め、名詞に関連の深い文法特徴は中国語の影響を被りやすいといえる。しかしながら、同じ名詞修飾でも形容詞による名詞修飾の場合は中国語の影響を被りにくい。この点については後述する。

調査対象者の約 2 割が「他動詞の過去時制」、「自他動詞対」、「自動詞の非過去時制」、「他動詞の非過去時制」、「斜格目的語」の項目について「それ以外の構造」を用いた。一方、「自動詞の過去時制」、「形容詞による修飾」、「授与動詞文の受け手」、「被使役者」に関しては、「それ以外の構造」を用いた調査協力者の占める割合は1割程度である。以上の文法項目の構造は保持されやすいことが分かった。

名詞による修飾と形容詞による修飾と指示代名詞と疑問詞による修飾を「名詞句内の修飾構造」、斜格目的語と授与動詞文の受け手と所有文と被使役者を「文レベルの格」、自動詞の過去時制と他動詞の過去時制と自動詞の非過去時制と他動詞の非過去時制と自他動詞対を「動詞形態法」とすると 3 つのグループの平均特徴保持率は、それぞれ「名詞句内の修飾構造」が 72.2%、「文レベルの格」が 81.3%、「動詞形態法」が 86.7%になる。動詞形態法が最も伝統方言の構造を保持しやすく、「名詞句内の修飾構造」が最も中国語の影響で変化を被りやすいことがわかる。

次節では、年代別に見た文法項目ごとの特徴保持率について考察することにする。

4.3.2 年代別に見た文法項目ごとの特徴保持率

この節では、年代別に見た文法項目ごとの特徴保持率についての考察を示す。

表 2 文法項目ごとの特徴保持率

	平均	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
斜格目的語	75.0%	75.0%	50.0%	50.0%	100.0%	75.0%	100.0%
授与動詞文の受け手	91.7%	75.0%	75.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
名詞による修飾	62.5%	50.0%	50.0%	75.0%	50.0%	75.0%	75.0%
形容詞による修飾	91.7%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
所有文	70.8%	50.0%	50.0%	75.0%	100.0%	75.0%	75.0%
被使役者	87.5%	75.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
指示代名詞と疑問詞による修飾	62.5%	50.0%	50.0%	50.0%	75.0%	75.0%	75.0%
自動詞の過去時制	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
他動詞の過去時制	83.3%	75.0%	75.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自動詞の非過去時制	79.2%	100.0%	50.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%
他動詞の非過去時制	87.5%	100.0%	75.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自他動詞対	83.3%	75.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2 によると、全年齢層の特徴保持率の平均が 8 割に満たないのは「斜格目的語」、「名詞による修飾」、「所有文」、「指示代名詞と疑問詞による修飾」であった。一方、動詞形態法は比較的保存される傾向が高い。

年代別の特徴保持率を確認すると、さまざまな傾向を見てとることができる。10 代から 40 代の比較的若い層は「斜格目的語」、「授与動詞文の受け手」、「形容詞による修飾」、「所有文」、「動

詞形態法」という項目では特徴保持率が 50%に満たない人が非常に多い。一方、50 代以上の世代では、若い層と異なる傾向がみられる。これらの世代の特徴保持率は非常に高く、全体的に 75%を超えている。

全体的には高年齢層ほど伝統的な構造を保持し、若い世代ほど中国語の影響を受ける傾向がある。ただし、最も若い世代が最も特徴保持率が低いわけではない項目もある。例えば、表 2 によると斜格目的語の特徴保持率は 10 代より 20 代と 30 代の方が低い。3 章で示した意識調査によると、10 代の人たちは親と住んでいる人が多い。一方、20 代と 30 代になると学校での下宿や仕事が理由で親と一緒に住んでいない人が多い。家庭内でのチベット語使用の有無が文法特徴の保持を左右する要因になっている可能性がある。

4.3.3 個人差

4.3.3.1 年代別の特徴保持率

この節では、年代別の特徴保持率についての考察を示す。

表 3　年代別の特徴保持率

年代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
平均値	72.9%	62.5%	72.9%	93.7%	91.7%	93.8%
男性	79.2%	87.5%	83.3%	95.8%	87.5%	87.5%
女性	66.7%	37.5%	62.5%	91.7%	95.8%	100.0%

表 4　学歴による特徴保持率（未成年を除く）

学歴	大学卒業	専門学校卒業	高校卒業	中学校卒業
特徴保持率	64.3%	91.7%	92.6%	94.4%

表 3 から、10 代から 40 代で男性の特徴保持率が女性より高いことがわかる。20 代の女性の保持率が最も低く 37.5%しかない。しかし、50 代と 60 代になると女性の方が保持率が高い。表 4 で示したように、大学卒業者の特徴保持率は 64.3%であった。専門学校卒業者、高校卒業者、中学校卒業者の特徴保持率に比べて大学卒業者の特徴保持率が低いことがわかる。

50 代以上とそれ以下で男女の特徴保持率が逆転するのは学歴を反映したものと考えられる。3 章に示した意識調査では、調査協力者 175 人のうち 41 人が「大学卒業」と答えた。この 41 人

のうち 20 代が 31 人を占めている。20 代の大学卒業者 31 人の内訳は、男性が 4 人、女性が 27 人であった。大学卒業率が 20 代では女性の方が高いことが分かる。一方、高校以上の学歴を答えた 50 代と 60 代の男性は 5 人、女性は 3 人であった。50 代以上になると、女性の学歴は男性より低い。このことから同じ年代でも学歴が高い傾向がある性別で特徴保持率が低いことがわかる。学歴が高ければ高いほど、チベット語は中国語の影響を受けやすいと考えられる。

4.3.3.2 チベット語に対する認識と使用実態の差

文法調査を受けた 24 人のうち 19 人が 3 章で示した意識調査で自分のチベット語運用能力について「流暢に話せる、支障がない」と答えた。しかし、彼らの伝統的構造の特徴保持率は多様である。特徴保持率が 90%～100%の人が 11 人、70%～90%の人が 7 人、特徴保持率が最も低い人は 41.7%である。

特徴保持率が 41.7%しかない一方、自分のチベット語について「流暢に話せる、支障がない」と評価した調査協力者の言語使用の認識は以下のとおりである。彼は家庭内でチベット語を中心に使用する。しかし、仕事場、チベット族同士で普段の会話をする時は、チベット語をあまり使用しないと回答した。家庭内でチベット語を使用するだけで、普段の生活や仕事の中でチベット語を積極的に使用しないと中国語からの影響を受けやすいことがわかる。一方、調査協力者は自分のチベット語がすでに中国語から大きく影響されていることを認識していないと考えられる。

自分のチベット語運用能力について「会話は可能だが、あまり流暢ではない」と回答した人は 4 人である。彼らの特徴保持率を確認したところ、特徴保持率が 90%以上の人が 1 人、75%の人が 1 人、30%～40%の人が 2 人である。特徴保持率が 90%以上にもかかわらず、自分のチベット語について「会話は可能だが、あまり流暢ではない」と評価した調査協力者がいる点に着目したい。

彼の言語使用の実態を確認したところ、彼が主にチベット語を使うのはチベット族同士で挨拶するときだけであった。家庭内、仕事場、チベット族同士で普段の会話をする時には、チベット語をあまり使用しないと回答している。文法調査の結果から彼の特徴保持率が高いことが分かる。しかし、彼は普段の生活では挨拶をする時しかチベット語を使わない。チベット語をあまり使わないとチベット語に対する自己評価が低くなると考えられる。

自分のチベット語運用能力について「聞き取れるが、会話はできない」と回答した人は 1 人である。彼女の特徴保持率を確認したところ、特徴保持率が 50%であった。3 章で示した意識調査によると、彼女は高校から大学まで綿陽市で 6 年間の学習歴があり、大学卒業後綿陽市で数

学の教師として仕事をしている。漢族が集中している地域での長期間にわたる学習歴と地元から離れた場所で仕事をすることが彼女の自分のチベット語についての評価に影響を与えたと考えられる。

チベット語の特徴保持率が最も低い人は 20 代の女性で、わずか 33.3%しかない。彼女の意識調査から見ると、彼女は小学校五年生から大学を卒業するまで 12 年間成都で勉強し、義務教育の段階ではチベット語を習ったことがない。また、自分のチベット語については会話は可能だが、あまり流暢ではないと回答した。家庭内では、祖父世代と会話をする時はチベット語を使用するが、父世代または同世代との会話は基本的に中国語で行うとしている。成都にいる時は学校や生活でもチベット語を使用する機会がなく、このことが彼女のチベット語に大きな影響を与えたと考えられる。

一方、チベット語の特徴保持率が 100%であった人が 7 人いた。その内訳は 20 代 1 人、30 代 1 人、40 代 1 人、50 代 1 人、60 代 3 人であった。彼らの意識調査を見てみると、彼らは全員九寨溝県以外の地域での居住歴を持っていないことが分かった。さらに、彼らは最初に習得した言語がチベット語であることも判明した。普段の生活や家庭内でもチベット語を主に使用している。言語環境はチベット語の保持にとって非常に重要であることが分かった。

調査協力者の経歴との関連で見ると、チベット語の特徴継承率に影響を与える要素は、義務教育（小学校、中学校）の段階でチベット語の勉強をしていないこと、九寨溝県以外の漢族が集中している地域（成都市、綿陽市など）での学習経験、チベット語の読み書き能力の不足、漢族との接触が強い職業、九寨溝県以外の地域に仕事や就学などによる居住歴があることなどを挙げることができることがわかった。

5. 結論

本稿では、九寨溝県地域におけるチベット族のチベット語の現状認識に関する意識調査と言語構造の継承状況に関する調査を行い、その分析を示した。

九寨溝県におけるチベット語の現状認識に関する意識調査を実施し調査結果を分析した。調査を通じてわかったのは、チベット語の学習を始める時期と学習方法に関しては、小さい頃から家庭内で習得するのが一般的であることである。この地域のチベット族は家庭内で親戚や家族と集まる時とチベット族同士でのコミュニケーションをとる時にチベット語をよく使う。また、祖父世代や父世代との会話でチベット語を使う人が多いことがわかった。一方、仕事場では、チベット語を使用する人は多くない。チベット語の運用能力が高い人ほど、家庭生活でチベット語を使う割合が高くなる傾向があることなどがわかった。九寨溝県のチベット語の言語保持の状態について、弱いもしくは絶滅の危機にあると考える人が多いことがわかった。チベット語を継承する上で学校でのチベット語学習が最も重視されていることがわかる。さらに、政府の強い保障が必要であり、より強力な政策が少数民族の言語教育にとって重要と考えられていることがわかった。

また、言語構造の継承状況に関する調査を行い、その結果を分析した。調査結果から、動詞形態法が最も伝統方言の構造を保持しやすく、「名詞句内の修飾構造」が最も中国語の影響で変化を被りやすいことがわかった。さらに、年代別に見た文法項目ごとの特徴保持率について考察したところ、高年層ほど特徴保持率が高いことがわかった。また、学歴が高ければ高いほど、チベット語は中国語の影響を受けやすい。50 代以上とそれ以下で男女の特徴保持率が逆転するが、これは大学卒の人数の逆転とリンクしていることがわかった。

本論文はこれまで研究が少なかった九寨溝県地域のアムドチベット語方言についての社会言語学的分析である。惜しまれる点は、時間不足もあって、データの分析や説明がかならずしも十分ではないことである。調査項目間の関連性などについては、今後の課題としてさらに研究を続け、考察を深めていきたいと思う。

参照文献

中華人民共和国国家統計局編(2011)『中国第六回人口センサス 2010』(電子版)中国統計出版社.

ダムディン, ジョマ(2017)「チベット語アムド農民方言 ： 音韻体系と文の基本構造」博士論文, 神戸市外国語大学.

海老原志穂(2010)『アムド・チベット語の発音と会話』東京:東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所.

海老原志穂(2019)『アムド・チベット語文法』 ひつじ書房.

範俊軍(2016)「言語の危機と言語の権利—付録:中国危機言語データベース基準(案)」『危機言語へのまなざし ： 中国における言語多様性と言語政策』石剛編. 107－121. 東京 ： 三元社.

尹虎彬 (2019)『新中国民族言語学研究 70 年』中国社会科学出版社.

格桑居勉・格桑央京(2002)『藏语方言概论』北京: 民族出版社.

宮岡伯人(1999)「危機に瀕した言語 崩れゆく言語と文化のエコシステム」『月刊言語』28 (1) : 110－117.

長野泰彦・立川武蔵(1987) 『チベットの言語と文化 ： 北村甫教授退官記念論文集』東京 ： 冬樹社.

西田龍雄・孫宏開(1990)『白馬譯語の研究 白馬語の構造と系統』 松香堂.

岡本雅享 (2008)『中国の少数民族教育と言語政策(増補改訂版)』東京:社会評論社.

鈴木博之(2007) 「川西民族走廊・チベット語方言研究」博士論文, 京都大学.

鈴木博之(2008)「九寨溝風景区のチベット語とペマ語をめぐる若干の問題」『アジア言語論叢』7: 91‐107.

武内紹人(1978)「現代チベット語における文の構造」修士論文, 京都大学.

UNESCO (2003) Language Vitality and Endangerment. Report by the UNESCO Ad Hoc Expert Group on Endangered Languages. http://www.unesco.org/culture/ich/doc/src/00120-EN.pdf［accessed May 2019］.

王西维 (2017)「少数民族大学生母语使用现状及发展对策研究」『贵州民族研究』02: 194-197.

謝辞

本研究に当たり、多くのご支援とご指導を賜り、指導教員である佐々木冠教授に深く感謝を申し上げる。また、滝沢直宏先生に副査として多大な助言を賜った。ここに感謝の意を表したい。そして、日本語の文法を直してくださったアカデミックライティングデスクの皆様に厚く御礼を申し上げ、感謝する次第である。最後に、意識調査と文法調査に協力して下さった調査協力者の皆様、皆様のおかげで本研究を完成させることができた。貴重なご意見をいただいたことに深く感謝を申し上げる。

添付資料①　　意識調査（中国語版）

关于九寨沟县地区藏语使用现状的调查

我是立命馆大学语言教育情报研究生科二年级学生龙玥。

此问卷是针对九寨沟地区藏语使用现状进行的调查。这项研究的目的是研究在汉语的影响下少数民族语言使用和语言能力的实际情况，以及在学习汉语的同时能否传承和保留藏语。我们希望通过此次的问卷调查能够找到良好的对策。答案无是非之分，请您放心填写。问卷所得的调查数据将归研究人员所有，并进行统计处理。

您所提供的信息我们承诺完全保密。如果您对调查的问题有何不明白的话，请您随时告知调查者。我们将会根据您所提供的调查数据完成毕业论文，并将其提交给立命馆大学。不会用于研究以外的目的。

如果您对上述的内容没有任何意见，期待您的参与及完成问卷调查。此次的问卷调查为自愿参加，通过回答问卷并提交表格，表示您自愿同意参与这项问卷调查。

本问卷调查有 39 题，问卷回答大约需要 15 分钟左右。非常感谢您的回答！如有任何疑问，请联系下面的电子邮件地址。

e-mail：532339732@qq.com

1. 性别 [单选题]

A 男性　　B 女性

2. 年龄：_____年（年满___岁）[填空题]

3. 民族：_____族 [填空题]

4. 您目前居住在九寨沟吗？ [单选题]

A 是（请跳至第 6 题）　　B 否

5. 现住地：_____省_____（市/州）[填空题]

6. 学历 [单选题]

A 未就学 B 小学 C 中学 D 高中 E 专科

F 大学 G 研究生

7. 您目前从事的职业：[单选题]

A 公务员 B 教师 C 学生 D 农民、牧民 E 医生

F 工薪阶层 G 服务业 H 僧侣 I 个人企业

J 其他 ____

8. 您在九寨沟以外的地方，有就学的经历吗? [单选题]

A 有 B 没有（请跳至第 10 题）

9. 就学经历

如果您在九寨沟以外的地方有过就学，请在下面写出您就读学校所在的城市

小学_____中学_____高中_____大学_____研究生院_____ [填空题]

10. 您有在九寨沟以外的城市居住过吗？ [单选题]

A 有 B 没有（请跳至第 12 题）

11. 居住经历

如果有在九寨沟以外的地方的居住经历，请填写以下项目。(如果在多个城市有居住经历，请按时间顺序填写)

① ___年至___年___岁至___岁 ___省___市

②___年至___年___岁至___岁 ___省___市

③___年至___年___岁至___岁 ___省___市

④___年至___年___岁至___岁 ___省___市

⑤___年至___年___岁至___岁 ___省___市 [填空题]

12. 您会说藏语吗？ [单选题]

A 会 B 会一点点 C 完全不会（请跳至第 24 题）

13. 您在义务教育中学习过藏语吗？ [单选题]

A.有　　B.没有

14. 您何时开始学习或懂得藏语？ [单选题]

A.从小就会　　B.小学　C.中学　D.大学　　E.工作后

F.没学过　　G.其他

15. 你最初(入学前)学会的语言是？ [多选题]

A.藏语　B.四川方言　C.普通话　D.其他(　　)

16. 您是用什么方法学会藏语的？ [多选题]

A. 长辈传授 B. 和本族人交流时 C. 在学校 D. 工作以后 E. 其他

17. 你觉得自己的藏语能力怎么样？ [单选题]

A. 十分流畅且没有交流障碍

B. 能进行简单的沟通但平时不怎么使用

C. 能听懂但不能进行对话

D. 完全无法理解

18. 你觉得自己的两种语言能力怎么样？[矩阵单选题]

(1)说话(a.藏语更好 b.汉语更好 c.差不多)

(2)写　(a.藏语更好 b.汉语更好 c.差不多)

(3)听　(a.藏语更好 b.汉语更好 c.差不多)

(4)读　(a.藏语更好 b.汉语更好 c.差不多)

19. 藏语的使用情况

你在下面的场景中实际上是怎么使用藏语的？请在相应的项目中加入“√”。

	①只使用藏语	②以藏语为中心使用	③不怎么使用藏语	④不使用藏语
家庭内部				
工作中				
和藏族人打招呼的时候				
和藏族们平时交流的时候				
在心中思考什么的时候				
举行民族活动时				

20. 您在和以下藏族同胞对话时会用什么语言？[矩阵单选题]

	祖父辈	父辈	兄弟姐妹辈	子女辈	孙辈
① 只使用藏语					
② 只使用汉语					
③ 使用藏语较多					
④ 使用汉语较多					
⑤ 使用其他语言					

21. 您使用藏语是因为:（可多选）[多选题]

A. 适合现在的工作和生活环境

B. 是自己的母语, 有着深厚的感情

C. 因为周围的人都在说

D. 为了使自己的民族文化得到更好的传承

E. 因为不会说其他语言

22. 你在和会藏语的人对话时使用什么语言？ [单选题]

A.藏语　B.汉语　C. 混合使用多种语言 _____

23. 你周围有不会说藏语的藏族人吗？ [单选题]

A. 有　　B. 没有（请跳至第 27 题）　　C. 不知道（请跳至第 27 题）

24. 他们的年龄？[矩阵单选题]

A.10 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

B.20 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

C.30 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

D.40 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

E.50 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

F.60 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

G.70 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

25. 你周围有藏语和汉语都说的很好的藏族人吗？ [单选题] *

A. 有　　B. 没有（请跳至第 30 题）　　C. 不知道（请跳至第 30 题）

26. 他们的年龄？[矩阵单选题]

A.10 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

B.20 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

C.30 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

D.40 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

E.50 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

F.60 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

G.70 岁以内　①多　②较多 ③少 ④较少 ⑤几乎没有

27. 你觉得自己的民族语言如何传承维持下去？ [多选题]

A. 家庭内一定要使用藏语　　B. 学校应开设藏语课

C. 保护藏语文字资料的传承　　D. 其他 _____

28. 你认为现在九寨沟县的藏语处于什么样的状态？ [单选题]

A. 保持状态良好　　B. 保持状态一般

C. 有弱化的趋势　　D. 处于濒危状态

29. 你觉得本民族的语言能维持多久？ [单选题]

A. 可以长期维持　　B. 大约三代人　　C. 大约二代人

D. 大约一代人　　E.不知道

30. 对于自己的子女, 您会希望他们学会藏语吗？ [单选题]

A.会　　B.不会　　C. 由他/她自己决定

31. 在九寨沟县, 您认为将来藏语的使用者会如何变化？ [单选题]

A.变多　　B.不变　　C. 减少

32. 你认为除了藏语以外, 还应该学会什么语言？ [单选题]

A.汉语　　B.英语　　C. 其他_____

33. 您作为藏族人, 对自己的民族特有的语言是什么看法？ [单选题]

A. 我觉得很自豪　　B. 我认为学会藏语是理所应当的

C. 没什么想法　　D.其他_____

34. 您认为, 藏语和汉语哪个更方便生活？ [单选题]

A.藏语　　B.汉语　　C. 差不多

35. 您认为藏语和汉语哪个对就职更有利？ [单选题]

A.藏语　　B.汉语　　C. 差不多

36. 你认为会藏语和会汉语哪个更重要？ [单选题]

A.藏语　　B.汉语

37. 对您来说藏语和汉语, 对于继承藏族传统文化各有什么优势？请说明理由 [多选题]

A.藏语_____　　B.汉语_____

38. 你认为有什么方式有利于藏语文化的传承？请在下面自由填写。 [填空题]

_____

39. 先生/女士，为了让我们这次的调查更加有准确性及参考性，我们会做出相应的回访，请你留下联系方式吧。感谢您的配合。（微信，QQ，电话号码，邮件等均可）[多选题]

添付資料②　　意識調査（日本語訳）

九寨溝県におけるチベット語の現状に関する意識調査

私は、立命館大学大学院言語情報研究科言語情報コミュニケーションコース 2 年次の龍玥です。

本研究の目的は、中国語の影響下における少数民族の人たちの言語使用や言語能力の実態はどうであるか、中国語を習得することと同時にチベット語の伝承・保持することが可能であるかなどを意識調査を通じて明らかにすることです。

本研究の調査データは調査者のもとに厳重に保管され、統計的に処理されます。個人のプライバシーの保護については十分配慮し、あなたにご迷惑をおかけすることはありません。ご協力いただきました調査データに基づき修士論文を作成し、立命館大学に提出することを予定しております。研究目的以外には使用いたしません。

上記の趣旨を理解いただき、各項目についてご回答ください。なお、調査への協力は任意であり、協力しなかったことであなたが不利益を被ることはありません。

意識調査への回答提出によって、本研究への協力について同意したこととみなさせていただきます。

記入に当たっては、記入漏れのないようにお願いいたします。回答には 15 分程度かかります。記入されましたら、下記のメールアドレスに提出してください。

不明な点がありましたら、下記のメールアドレスにご連絡ください。

研究実施者:

立命館大学大学院言語情報研究科言語情報コミュニケーションコース　龍玥

e-mail:532339732@qq.com

言語使用の現状に関する意識調査

個人情報

1. 性別　　A 男性　B 女性

2. 年齢　　_____年　　____歳

3. 民族　　_____族

4. あなたは現在九寨溝に住んでいますか？（A を選んだ人は第 6 問へ進んでください）

A はい　　B いいえ

5. 現住地 ____省____県____町

6. 学歴　A 未就学 B 小学校 C 中学校 D 高校 E 専門学校

F 大学　G 大学院

7. 職業　A 公務員 B 教師 C 学生 D 農民、牧民 E 医者

F サラリーマン　G サービス業 H 僧侶　I 私企業

J その他 ____

8. あなたは九寨溝県以外のところで就学したことありますか？（B を選んだ人は第 10 問へ進んでください）

A ある　　B ない

9. 就学経歴

以下の項目に就学した学校がある都市に書いてください。

小学校____　中学校____　高校____　大学____　大学院____

10. あなたは九寨溝県以外の地域に住んだことありますか？（B を選んだ人は第 12 問へ進んでください）

A ある　B ない

11. 居住歴

九寨溝県以外の地域での居住歴を以下の項目で答えてください。（複数の居住歴があれば、下記に回答してください。）

① ___年から___年　___歳から___歳　____省_____市

② ___年から___年　___歳から___歳　　____省_____市

③ ___年から___年　___歳から___歳　　____省_____市

④ ___年から___年　___歳から___歳　　____省_____市

⑤ ___年から___年　___歳から___歳　　____省_____市

12.あなたはチベット語が使えますか？（C を選んだ方は、第 24 問から回答してください。）

A.出来る　B.少しだけ出来る　C.全く出来ない

13.あなたは義務教育ではチベット語を受けたことがありますか？

A.ある　B.ない

14.あなたはいつからチベット語を習得し始めましたか？

A.小さい頃から　B.小学校　C.中学校　D.大学　E.就職後

F.勉強したことがない　G.その他

15.あなたは最初（入学前）に習得した言語は何ですか？

A.チベット語　B.四川方言　C.普通語　D.その他（　）

16.あなたはどのような方法でチベット語を習得しましたか？

A. 家庭内で習得した　B.チベット族同士の交流で自然に覚えた　C.学校で習得した　D.就職後に習得した　E.その他（　）

17.自分のチベット語使用能力についてどう思いますか？

A.流暢に使える。意思疎通に支障がない

B.会話は可能だが、あまり流暢ではない

C.聞き取れるが、会話はできない

D.全く理解できない

18.自分の二言語能力についてどう思いますか?

（1）話す（a.チベット語の方が得意 b. 中国語の方が得意 c.同程度）

（2）書く（a. チベット語の方が得意 b. 中国語の方が得意 c.同程度）

（3）聞く（a. チベット語の方が得意 b. 中国語の方が得意 c.同程度）

（4）読む（a. チベット語の方が得意 b. 中国語の方が得意 c.同程度）

19.チベット語の使用状況

あなたは以下の場面で実際にチベット語をどう使用していますか？該当する項目に【☑】を入れてください。

	① チベット語しか使用しない	② チベット語を中心に使用する	③ チベット語をあまり使用しない	④ チベット語を使用しない
家庭内				
仕事場				
チベット族同士で挨拶する時				
チベット族同士で普段の会話をする時				
心の中で何かを考える時				
民族活動を行う時				

20. 以下のチベット族の人との会話で何語を使用しますか？

	祖父世代	父世代	兄弟姉妹	息子世代	孫世代	同世代
① チベット語しか使用しない						
② 中国語しか使用しない						
③ 他の言語を使用する						
④ 基本的にチベット語を使用する						
⑤ あまりチベット語を使用しない						

21.なぜチベット語を使用するのか？（複数回答あり）

A.今の仕事、生活にふさわしいから

B.自分の母語であり、深い感情を持っているから

C.周りの人が使用しているから

D.自分の民族言語をきちんと継承したいから

E.他の言語が使えないから

22.あなたは、チベット語ができるチベット族同士で会話する時には何語を使用しますか？

A.チベット語

B.中国語

C. 複数言語を混合使用

23. あなたの周りにチベット語が話せないチベット族はいませんか？

A.いる　　B.いない　　C.わからない

24.彼らの年齢（複数回答あり）:（ ）

A.10 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

B.20 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

C.30 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

D.40 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

E.50 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

F.60 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

G70 代以上　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

25. あなたの周りにチベット語と中国語の両方を上手に使えるチベット族がいますか？

A.いる　　B.いない　　C.わからない

26.彼らの年齢（複数回答あり）:（ ）

A.10 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

B.20 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

C.30 代　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

D.40 代　　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

E.50 代　　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

F.60 代　　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

G70 代以上　多い　やや多い　やや少ない　少ない　ほとんどいない

27.自分の民族言語はどうすれば維持できると思いますか？

A.家族内で必ずチベット語を使用する

B.学校でチベット語の授業を設ける

C.チベット語の文字を習得する

D.その他（　　）

28.現在九寨溝県のチベット語はどのような状態だと思いますか？

A.言語保持の状態がよい

B.言語保持の状態が普通

C.言語保持の状態が弱い

D.言語保持の状態が絶滅の危機にある

29.チベット族の言語はどれぐらいの期間維持できると思いますか？

A.長い間維持できる

B.三世代ぐらい維持できる

C.二世代ぐらい維持できる

D.一世代ぐらい維持できる

E.わからない

30.自分の子女がチベット語を勉強することについてどう考えていますか？

A.賛成　B.彼／彼女が自分で決めること　C.賛成しない

31.九寨溝県でのチベット語の将来についてどう思いますか？

A. 使用者が多くなる

B. 使用者が現在と同じ

C.　使用者が少なくなる

32.チベット語以外に、どの言語を習得する必要があると思いますか？

A .中国語　　B.英語　C.その他（　）

33.あなたがチベット族として、自分の民族語を話せることをどう思いますか?

A.　誇りに思う　　B.　当たり前だと思う　　C.　なんとも思わない

D.　その他（　　）

34.あなたにとってチベット語と中国語のどちらが生活する上に便利ですか？

A.チベット語の方が便利　B.中国語の方が便利　C.　どちらということはない

35.あなたにとってチベット語と中国語のどちらが就職上有利ですか？

A.チベット語の方が有利　B.中国語の方が有利　C.　どちらということはない

36.あなたにとってチベット語と中国語のいずれが重要ですか?

A.チベット語　　B.中国語

37.あなたにとってチベット語と中国語のどちらがチベット族の伝統継承の上に便利ですか？

A.チベット語の方が便利　B.中国語の方が便利　C.　どちらということはない

　できれば、その理由を教えてください。

38.どんな方法を使って、チベット語の継承ができると思いますか？以下の欄に自由に記述してください。

39.今回の調査がより正確で参考になるように、連絡先を残してください。ご協力ありがとうございます。（WeChat、QQ、電話番号、メールなど）

添付資料③　　文法調査項目

请将下面的句子翻译为藏语（以下の文をチベット語に訳してください）

1.我害怕扎西（私はザシが怖い）

2.我喜欢扎西（私はザシが好きだ）

3.我把这本书给他了（私は彼にこの本を与えた）

4.我把水给他了（私は彼に水を与えた）

5.你的羊（あなたの羊）

6.那里有个很大的房子（あそこに大きな家がある）

7.扎西有孩子（ザシは子供がいる）

8.爸爸让他喝酒了（父は彼にお酒を飲ませた）

9.老师让他跑步了（先生は彼を走らせた）

10.妈妈让我去学校了（母が私を学校に行かせた）

11.老师让我读这本书（先生は私にこの本を読ませた）

12.哪件衣服是你的？（どの服があなたのですか）

这件衣服（この服）

13.他一点的时候到了学校（彼は1時に学校に着いた）

14.他一点的时候吃了饭（彼は1時にご飯を食べた）

15.正在下雨（雨が降っている）

16.我在学习英语（私は英語を勉強している）

17.门自己开了（門が勝手に開いた）

18.我把门开了（私は門を開けた）